

ISSN-L 2186-7046

宮城県保健環境センター年報

平成 26 年度

ANNUAL REPORT
OF
MIYAGI PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No.33 2015

宮城県保健環境センター

は じ め に

宮城県保健環境センターは、県民の健康と生活環境を守るため保健衛生及び環境行政の中核施設として、試験検査、調査研究、情報の発信等を行っております。

当所は東日本大震災で本庁舎が被災したことから、被災後は仮住まいの庁舎で業務の一部を縮小しながら活動しておりましたが、平成27年3月に元の敷地に新しい本庁舎が完成し、平成27年4月から震災前と同様に本庁舎、分庁舎及び特定化学物質検査棟で業務を本格的に開始しました。

現在、保健衛生分野では感染症対策や食品安全対策が、また、環境分野では有害物質等による環境汚染防止対策等が重要な課題となっています。

また、日本固有の気候や風土、そしてこれまで受け継がれてきた人の営みによって培われてきた豊かで美しい国土、県土を保全し後世に引き継ぐことがより強く求められています。

センターは、関係機関との密接な連携のもと、職員一人一人が研鑽を重ねて、これらの課題に対して自らの役割を果たしていく使命を持っているものと考えております。関係者の皆様には、なお一層の御指導と御支援をお願いします。

このたび、平成26年度における事業実績や研究成果等を年報第33号として取りまとめました。関係者の皆様に御活用いただければ幸いです。

平成27年12月

宮城県保健環境センター

所 長 渡 部 俊 文

目 次

A 事業概要

総 説

1 沿 革	1
2 機構及び業務分担	2
3 職 員	3
4 決 算	4
5 主要機械器具	5
6 技 術 研 修	6
7 講 師 等 派 遣	10
8 定期購読図書一覧	11

概 況

1 企画総務部	13
2 微生物部	14
3 生活化学部	19
4 大気環境部	22
5 水環境部	26

B 調査研究

論 文

宮城県内の動物由来感染症の発生要因に関する疫学的研究	29
畠山 敬 小泉 光 市川 祐輝 工藤 剛 後藤沙弥香 木村 葉子 渡邊 香織 中村 久子 山口 友美 八島由美子 吉川 弓林 後藤 郁男 福田 健二 建入 茂樹 佐藤 俊郎 小林 妙子 渡邊 節	
環境中におけるレジオネラ属菌分布状況調査	33
山口 友美 畠山 敬 渡邊 節	
過去 10 年間の宮城県におけるサルモネラの検出状況について	37
小泉 光 木村 葉子 中村 久子 小林 妙子 渡邊 節	
STQ 法による残留農薬分析のための試料前処理法の検討	41
千葉 美子 瀧澤 裕 大内 亜沙子 高橋 美保	
新幹線鉄道のトンネル周辺における低周波音調査	46
島影 裕徳 菊地 英男 安藤 孝志	
宮城県における有害大気汚染物質調査	51
佐藤 郁子 小泉 俊一 高橋 正人 佐久間 隆 安藤 孝志	
宮城県沿岸閉鎖性海域における貧酸素水塊発生状況の把握(第1報)	57
千葉 文博 福地 信一 牧 秀明 波岡 陽子 赤崎 千香子 佐藤 千鶴子 泉澤 啓	

技術資料

平成 26 年度に発生した三類感染症	61
微生物部	

宮城県結核・感染症発生動向調査事業	63
微生物部	
感染症流行予測調査	68
微生物部	
平成 26 年度収去検査結果(細菌検査)実績	72
微生物部	
平成 26 年度食中毒検査結果	73
微生物部	
Nested real-time PCR 法を用いたカキからのノロウイルス検出	74
木村 俊介 鈴木 優子 阿部 美和 菅原 直子 植木 洋	
渡邊 節 野田 衛	
カキからのノロウイルス抽出法の検討	76
菅原 直子 木村 俊介 鈴木 優子 阿部 美和 植木 洋	
渡邊 節 真砂 佳史 大村 達夫	
クドア・セプトンククタータによる食中毒事例について	78
中村 久子 小泉 光 木村 葉子 河田 美香 那須 由衣子	
工藤 剛 千田 恵 小林 妙子 渡邊 節	
LC/MS/MS を用いた不揮発性アミン類分析法の妥当性評価	81
瀧澤 裕 千葉 美子 高橋 美保	
平成 26 年度生活化学部検査結果	83
生活化学部	
大気中の揮発性有機化合物調査	88
佐藤 郁子 小泉 俊一 高橋 正人 佐久間 隆 安藤 孝志	
宮城県における大気汚染常時監視結果(2014 年度)	90
坂本 功 佐藤 直樹 安藤 孝志	
宮城県における公共用水域中のダイオキシン類分析結果	92
石川 文子 黒江 聡 菱沼 早樹子 泉澤 啓	
調査研究課題一覧	97

C 研究発表状況

他誌論文抄録	99
学会発表等	99